

# 第10回 流水型ダム環境保全対策検討委員会

## 説明資料 【今後のスケジュールについて】

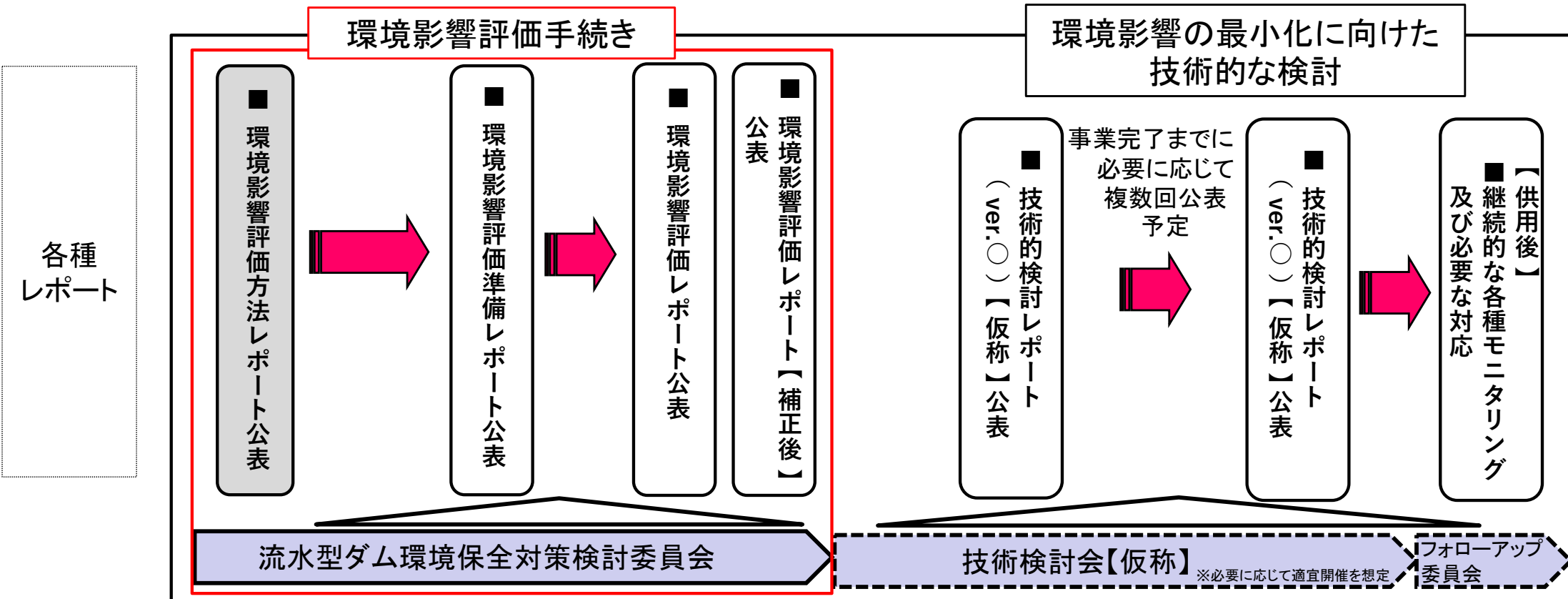
令和5年10月31日



国土交通省 九州地方整備局 川辺川ダム砂防事務所



- 環境影響の最小化に向けて、環境影響評価と並行して実施しているダムの施設等設計や試験湛水手法、ダムの運用等の検討も織り込みながら、環境と構造の技術的な観点から検討を進め、現時点での知見を最大限反映した準備レポート(評価レポート)を取りまとめる。
- 環境影響評価の手続き後においても、学識経験者の指導や助言を頂きながら、更なる環境への影響の最小化に向け、継続的に生物や濁りなどの水質環境調査、並びに、数値計算や各種実験を実施し、降雨予測技術の進展等、ダムに関係する周辺技術の情報収集に努め、ダムの施設等設計や試験湛水手法、ダムの運用等の検討を追求していく。
- 検討した結果については、技術的検討レポート(ver〇)【仮称】として、公表・周知していくとともに、技術的な検討結果を記録し継承していく。



- 技術的検討
- ・大型水理模型実験や数値計算による生物の移動経路、流砂環境の検討
  - ・河床変動計算による生物の生息・生育・繁殖環境の変化の把握
  - ・動植物、水質等の調査による生態系の把握 等
  - ・流水型ダムの運用による河床材料変化や薄濁りも含む濁りの影響検討
  - ・ダムの基本的諸元(放流設備や減勢工等)を踏まえた大型水理模型実験及び数値計算によるダム上流河道等の詳細な検討、流木捕捉施設の配置等の検討
  - ・気候変動等による降雨や水温、生態系の各種モニタリング等を踏まえた試験湛水計画の検討等
  - ・現地模型や地域の協議会による洪水調節地の利活用・維持管理方法の具体的な検討